

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は平成28年度日本陸上競技連盟規則に準じて行うが、「1回目のフライングで失格」の新規則は教育的配慮により適用せず、旧ルール（一人が2回のフライングで失格）を適用する。
2. ナンバーカード（ゼッケン）は胸と背に必ず規定のものを糸又は安全ピンで取り付ける。
3. 選手の招集について
競技開始15分前までに競技者係（受付場所）で自分の名前と学校名を知らせ、ナンバーカード（ゼッケン）を見せる。
招集開始時間と終了時間、競技開始時刻はプログラムに書いてあるので、よく見て遅れないようにすること。点呼に遅れると失格になることがあるので注意するように。
招集が終わったら審判員の指示に従い、まとまって競技場所にきちんと並んで移動する。
種目が重なっている場合、走る方の種目が優先するので、そのことを係審判員に申し出て指示に従う。
4. プログラムに記載の間違いがあったら本部に早めに申し出ること。
5. レーン順、試技順はプログラムの番号順とする。
6. 決勝種目の出場者名は競技者係（受付場所）の掲示板に張り出すのでよく見ること。
7. リレーについてはすべて、決められたレーンを走る。（バトン受け渡しゾーンの入口には▶、出口には◀マークがついている。）
オーダーは1時間前までに競技者係に申し出て、プログラムに走る順を記入する。
バトンを渡しても他の選手のじゃまにならないようにするため、係の指示があるまで、自分のレーンから出ないように。
8. ハードルは、スタートから第1ハードルまで13m、インターバル7m、高さ70cm、台数9台、最終ハードルからゴールまで11mとする。
9. スパイクシューズ、スタートのしかた、リレーのテークオーバーゾーンについては要項に記載のとおり。
10. フィールド競技（走高跳、走幅跳、砲丸投、ジャベリックボール投）
 - (1) 走り高跳びのバーの上げ方は次のとおりとする。（天候によって変更することもある）
男子 練習1 M05試技1 M10から5cm上げ、1 M30以上は3cm上げとする。
女子 練習95cm 試技1 M00から5cm上げ、1 M20以上は3cm上げとする。
※ 背面跳びでなく、はさみ跳びでマットへの着地は必ず足裏からとし、背・腰などからの着地は無効とする。
 - (2) 走幅跳、砲丸投、ジャベリックボール投げの試技は、それぞれ3回ずつで、ジャベリックボール投げのみ3連投とする。
 - (3) 砲丸は男女共2.721kgのものを使用する。
11. 競技に使う器具は、すべて競技場備えつけのものを使用する。
12. その他
 - (1) 各種目3位までメダルと賞状を授与する。
 - (2) 選手は、表彰の時以外は本部席前を通らないこと。
 - (3) トラックを横断する時は、事故のないよう、十分気をつけること。
 - (4) 貴重品は自分で管理すること。（引率の先生または付添いの父母にたのんでもよい）
 - (5) けがをしたり、具合の悪いものは無理をせず、引率の先生や付添いの父母の指示で手当を受けること。（状況によっては、早めに本部に申し出ること）
 - (6) 競技場の施設、設備を汚したり、いためたりなどしない。後始末などは（自分たちの使った場所の周辺）は各自の責任できちんとする。ゴミ類はすべて自分で持ち帰ること。
 - (7) 全道大会の出場資格を得て、出場希望の選手は必ず大会当日に本部の全道大会受付係に申し出ること。
（リレー以外のトラック種目は3位まで、リレーとフィールド種目は2位までと、全道大会要項記載の参加標準記録に達したもの）
 - (8) 中学生については春季大会の競技注意事項と同じとする。